

湯舟坂プロジェクトの軌跡

諫早 直人

1. 湯舟坂プロジェクト開始の経緯

京都府立大学文学部考古学研究室では、令和 2 年度京都府立大学地域貢献型特別研究（以下、府大 ACTR）「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」（研究代表：諫早直人）に採択されたことを契機として、2020 年より京丹後市教育委員会・京都府立丹後郷土資料館などと共同で、丹後半島はもちろん、京都府を代表する後期古墳である京丹後市久美浜町須田区に所在する湯舟坂 2 号墳の学術的価値の再評価作業に着手した。

国指定重要文化財・丹後湯舟坂二号墳出土品や現地に保存されている京都府指定史跡・湯舟坂 2 号墳について、高精細写真の撮影や三次元計測など最新の調査・撮影機器を用いた再調査を実施し、1981 年の発掘、1983 年報告書の刊行以来、40 年ぶりとなる学術的価値の更新を主たる目的とした点で、本研究でおこなっていることは、大学の考古学研究室を含む研究機関が古墳に対しておこなう一般的な学術調査と何ら変わるところはない。一方で、研究開始当初から地元久美浜町での成果報告会などを通じて、得られた調査成果をすみやかに地域に還元し、地域住民が湯舟坂 2 号墳に対して「地域らしさ」を感じ、「地域資源」として持続的に活用していけるような仕組みの創出を目指した点は、少なくとも大学の考古学研究室で一般におこなわれている学術調査とは一線を画するものであろう。

研究を開始した 2020 年は世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていたこともあり、大勢の人が集まることが憚られる状況が研究期間の大半を占めたが、出土品の保管されている京都府立丹後郷土資料館や湯舟坂 2 号墳の所在する京丹後市久美浜町須田区に研究メンバーや学生たちと断続的に通う中で、地元の京丹後市教育委員会や京丹後市久美浜町須田区との連携は年を追うごとに深まっていき、京都府立丹後郷土資料館や京丹後市立丹後古代の里資料館での湯舟坂 2 号墳発掘 40 周年展の開催や、須田平野古墳の発掘調査、「つなプロ」をきっかけとする京丹後市立高龍小学校での連携授業など、研究開始当初は誰もが予想のできなかった展開をみせている。「湯舟坂プロジェクト（湯舟坂 2 号墳プロジェクト）」と称して進めてきた本プロジェクトの詳細については、本書Ⅲ -1 を参照していただくとし、ここでは 2020 年度から 2023 年度までのプロジェクトの体制、経過とその成果について時系列で整理しておきたい。

2. 研究体制

本研究は以下の 4 件の府大 ACTR を中心に、日本学術振興会科学研究費基盤研究 (B) 「古墳・副葬品の多角的検討にもとづく日本列島初期仏教受容史の再構築」（課題番号 22H00719・23K21991、研究代表：諫早直人）などをもとに進めてきた。

①「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」（令和2年度、研究代表：諫早直人）

②「過疎化が進む地域における文化遺産の地域資源化に向けての実践的研究—京丹後市久美浜町須田区からの発信—」（令和4年度、研究代表：諫早直人）

③「地域・学校・博物館との連携にもとづく文化遺産の次世代に向けた活用研究」（令和5年度、研究代表：菱田哲郎）

④「文化遺産の記録化・記憶化による地域未来の創出に関する実践的研究」（令和6年度、研究代表：諫早直人）

府大 ACTR は年度ごとの申請のため、研究組織も年度ごとに違いはあるが、本プロジェクト全体の関係者は以下の通りである（順不同。所属は現時点のもの）。

研究代表者

諫早直人（京都府立大学文学部）

研究分担者・協力者

菱田哲郎（京都府立大学文学部）

本庄総子（京都大学大学院文学研究科、京都府立大学文学部非常勤講師）

塚本敏夫（（公財）元興寺文化財研究所、京都府立大学文学部非常勤講師）

仲林篤史（城陽市教育委員会、京都府立大学文学部共同研究員）

初村武寛（（公財）元興寺文化財研究所、京都府立大学文学部共同研究員）

金字大（滋賀県立大学人間文化学部）

栗山雅夫（（独法）国立文化財機構 奈良文化財研究所）

松尾史子（京都府立丹後郷土資料館）

森島康雄（（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

稲穂将史（京都府教育庁）

稲本悠一（兵庫県まちづくり技術センター）

新谷勝行（京丹後市役所）

奥勇介（京丹後市教育委員会）

岸本卓也（素組アート）

参加学生

大平理紗、岡田大雄、溝口泰久、楠山華、土井悠起、松田篤、守田悠、吉田祐太、吉永健人、井川瑞季、梅野留美子、福田麻衣、藤川聖起、増田慧子、瀬川裕太郎、大倉響稀、大須賀丈汰郎、重野正和、西島翼、山内愛弓、横白彩江、石川達葵、岡崎壮太、越川輝、本田龍平、依田萌奈、多田一郎、栗田晋吾、鮫島聖斗、藤井まつり、和田佳織

3. プロジェクトの軌跡

【2020年度】

2020年9月1～16日：京丹後市教育委員会、京都府立丹後郷土資料館と共同で、国指定重要文化財・湯舟坂二号墳出土品の調査・撮影を実施。

2020年10月19・21日：京丹後市教育委員会と共同で府史跡・湯舟坂2号墳および須田平野古墳の横穴式石室の三次元計測や撮影を実施。

2021年1月23日：『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』の刊行。同日、京丹後市久美浜町にて実施予定であった成果報告会は新型コロナウイルス感染症の再拡大によって開催延期となった。

2021年2月19・20日：京丹後市久美浜町須田区と共同で須田平野古墳解説板を設置。

【2021年度】湯舟坂2号墳発掘40周年

2021年4月24日～6月20日：京都府立丹後郷土資料館にて企画展「黄金の大刀発掘40年 湯舟坂2号墳細見」を開催（新型コロナウイルス感染症の再拡大によって4月25日～5月31日まで休館）。

2021年4月24日～8月1日：京丹後市立丹後古代の里資料館にて春季企画展示「地域の中の湯舟坂2号墳～発掘40周年記念展～」を開催（新型コロナウイルス感染症の再拡大によって4月25日～5月31日まで休館）。

2021年7月24日：京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区と共同で、京丹後市役所久美浜庁舎大会議室にて京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳」を開催。

2021年10月17日：大雲寺本堂における湯舟坂2号墳「慰霊祭」への参加。

【2022年度】

通年：京都府ミュージアムフォーラム（京都府文化生活部文化政策室）が推進する「次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト（通称：つなプロ）の京丹後モデルに協力し、京丹後市立高龍小学校5年生を対象に連携授業を実施（<https://museumforum.pref.kyoto.lg.jp/tsunapro/1497/>）。

2022年8月21日：八尾市立しおんじやま古墳学習館が主催するしおんじやま学び場オンラインにおいて吉永健人が「京都府大生が企画した丹後王国の魅力発信プロジェクト IN 京丹後市久美浜町須田区」と題して発表（<https://www.youtube.com/watch?v=0dF8CTNrs7I>）。

2022年9月19～27日：京丹後市教育委員会と共同で須田平野古墳の測量調査を実施。

2022年10月15日：京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区と共同で、京丹後市役所久美浜庁舎大会議室にて京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅱ—出土品研究の最前線—」を開催。

2022年10月16日：湯舟坂2号墳における湯舟坂2号墳「慰霊祭」への参加。

【2023年度】

2023年7月1日：京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区と共同で、京丹後市役所久美浜庁舎大会議室にて京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る—」を開催。

2023年9月19日～10月2日：京丹後市教育委員会と共同で須田平野古墳の第一次発掘調査を実施。調査期間中、京丹後市立高龍小学校5年生を対象に連携授業を実施。

2023年10月13日：漢城大学校（大韓民国ソウル市）で開催された第6回 城北学 学術会議「경계를 넘어：지역학의 교류와 성장（境界を越えて：地域学の交流と成長）」において諫早直人

が「古墳を地域資源化する―湯舟坂プロジェクトの軌跡と展望―」と題して発表。

4. 研究成果 (* 本書にコラムとして再録したものに下線を付した。)

(1) 学術論文・報告

【2021年】

諫早直人 2021a 「湯舟坂プロジェクトのめざすところ」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

諫早直人 2021b 「古墳を地域資源化する―湯舟坂2号墳プロジェクトの挑戦―」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第7号 京都府立大学文学部歴史学科

諫早直人 2021c 「デジタル技術を利用した金工品の実測図作成法試論」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用3―著作権・文化財動画・GIS・三次元データ・電子公開―』奈良文化財研究所

諫早直人 (編) 2021 『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

岡田大雄 2021 「湯舟坂2号墳ともう一つの横穴式石室―須田平野古墳の三次元計測―」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

奥村清一郎 2021 「湯舟坂2号墳の発掘調査をふりかえる」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

栗山雅夫 2021a 「再撮と新撮―写真で挑む湯舟坂2号墳―」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

栗山雅夫 2021b 「「民学官」で護り伝える文化財―湯舟坂2号墳プロジェクトから―」『文化財写真研究』Vol.11 文化財写真技術研究会

新谷勝行 2021 「湯舟坂2号墳の発掘調査がもたらしたもの」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

塚本敏夫 2021 「開ける、調べる、閉める―黄金の大刀を遺し・伝える保存科学―」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

菱田哲郎 2021 「うつわの大変革―湯舟坂2号墳出土の土器が示すこと―」『京都府立大学 ACTR 成果報告会 地域資源としての湯舟坂2号墳 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

【2022年】

諫早直人 2022 「湯舟坂2号墳出土貝装馬具、もう一つの海の道」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅱ―出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室

諫早直人・溝口泰久 (編) 2022 『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅱ―出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室

奥勇介 2022 「地域の中の湯舟坂2号墳展開催報告」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅱ―出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室

- 金宇大 2022 「湯舟坂 2 号墳出土大刀の考古学的調査とその研究」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 京都府立大学文学部考古学研究室（諫早直人・守田悠・吉永健人・松田篤・土井悠起）2022 「古墳を地域資源化する 2—湯舟坂 2 号墳プロジェクトの 2021 年—」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第 8 号 京都府立大学文学部歴史学科
- 栗山雅夫 2022 「湯舟坂 2 号墳出土品の高精細写真撮影」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 黒住耐二 2022 「湯舟坂 2 号墳出土具製馬具の素材」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 土井悠起 2022 「大学が行う遺跡の活用—和束町と京丹後市での実践—」『文化財の保存活用と地域コミュニティ』（京都府立大学文化遺産叢書 23）京都府立大学文学部歴史学科
- 新納泉 2022 「黄金の大刀の発掘とその後」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 初村武寛・山口繁生 2022 「湯舟坂 2 号墳出土大刀・銅鏡の文化財科学調査」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 菱田哲郎 2022 「湯舟坂 2 号墳出土品が語る」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 森島康雄 2022a 「企画展「湯舟坂 2 号墳細見」から」『丹後郷土資料館調査だより』第 11 号 京都府立丹後郷土資料館
- 森島康雄 2022b 「細見、そして再検討—湯舟坂 2 号墳細見展から—」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 吉永健人 2022 「湯舟坂 2 号墳を「作る」「伝える」—京都府立大学の文化遺産活用—」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ—出土品研究の最前線《発表資料集》』京都府立大学文学部考古学研究室
- 【2023 年】**
- 諫早直人 2023a 「湯舟坂 2 号墳の被葬者像について考える」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ—湯舟坂 2 号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室
- 諫早直人 2023b 「古墳を地域資源化する—湯舟坂プロジェクトの軌跡と展望—」『경계를 넘어 : 지역학의 교류와 성장』sb 城北
- 諫早直人・井川瑞季（編）2023 『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ—湯舟坂 2 号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室
- 稲本悠一 2023 「出土土器からみた湯舟坂 2 号墳」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ—湯舟坂 2 号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室
- 奥勇介 2023 「古墳で見る川上谷、そして伯耆谷」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ—湯舟坂 2 号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室
- 岸本卓也 2023 「湯舟坂 PROJECT の関わりの中で須田区の未来を考える」『地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ—湯舟坂 2 号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学

部考古学研究室

京丹後市教育委員会・京都府立大学文学部考古学研究室 2023 「須田平野古墳 2023 年度の発掘調査の成果」(現地説明会資料)

京都府立大学文学部考古学研究室 (諫早直人・重野正和・守田悠・大倉響稀・大須賀丈汰郎・吉永健人・松田篤・井川瑞季) 2023a 「京丹後市須田平野古墳の調査(1)」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第9号 京都府立大学文学部歴史学科

京都府立大学文学部考古学研究室 (諫早直人・松田篤・井川瑞季・守田悠・吉永健人) 2023b 「古墳を地域資源化する3—湯舟坂2号墳プロジェクトの2022年—」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第9号 京都府立大学文学部歴史学科

栗山雅夫 2023a 「考古資料写真のデジタル化—変わるモノと変わらないコト—」『文化財論叢 V』奈良文化財研究所

栗山雅夫 2023b 「湯舟坂2号墳土層断面のデジタル高精細撮影」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

栗山雅夫 2023c 「IV. 埋蔵文化財写真の活用例 1 「湯舟坂2号墳プロジェクト」『埋蔵文化財と写真技術』(考古調査ハンドブック23) ニューサイエンス社

菱田哲郎 2023 「須恵器もどきの土師器—湯舟坂2号墳からみた器の革新—」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

本庄総子 2023 「丹後王国論の現在」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

溝口泰久 2023 「重量からみた湯舟坂2号墳の須恵器生産」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

守田悠 2023 「木棺からみた湯舟坂2号墳」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

吉永健人 2023 「湯舟坂プロジェクトとつなプロ—世代を超えた文化遺産活用—」『地域資源としての湯舟坂2号墳Ⅲ—湯舟坂2号墳の被葬者像を探る— 発表資料集』京都府立大学文学部考古学研究室

【2024年(2023年度分)】

諫早直人・栗山雅夫・初村武寛・金宇大 2024 「小倉田古墳出土双龍環頭大刀」『夜久野の後期古墳と末窯跡群』(京都府立大学文学部文化遺産叢書 第28集) 京都府立大学文学部歴史学科

京丹後市教育委員会・京都府立大学文学部考古学研究室 2024 「須田平野古墳 2024 年度の発掘調査の成果」(現地説明会資料)

京都府立大学文学部考古学研究室 (諫早直人・横白彩江・井川瑞季・守田悠・菱田哲郎) 2024a 「京丹後市須田平野古墳の調査(2)」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第10号 京都府立大学文学部歴史学科

京都府立大学文学部考古学研究室（諫早直人・吉永健人・瀬川裕太郎・石川達葵・越川輝・山内愛弓）
2024b「古墳を地域資源化する 4—湯舟坂 2 号墳プロジェクトの 2023 年—」『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第 10 号 京都府立大学文学部歴史学科

（2）制作物

【2020 年】

湯舟坂 2 号墳出土品写真 一式（栗山雅夫氏撮影）

湯舟坂 2 号墳、須田平野古墳写真 一式（栗山雅夫氏撮影）

湯舟坂 2 号墳出土品 3D データほか 一式（元興寺文化財研究所計測）

湯舟坂 2 号墳石室 3D データ 一式（相互技研計測）（図 7）

湯舟坂 2 号墳空撮写真 一式（相互技研撮影）

京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂 2 号墳」ポスター（素組アート制作）（図 1・2）

京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂 2 号墳」資料集（京都府立大学文学部考古学研究室発行）

【2021 年】

湯舟坂 2 号墳土層剥ぎ取り写真 一式（栗山雅夫氏撮影）

須田平野古墳解説板（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

湯舟坂オリジナルポストカード 三種（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

写真パネル展解説チラシ（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

【2022 年】

湯舟坂オリジナルポストカード 三種（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

湯舟坂オリジナルクリアファイル（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

須田区古墳 MAP（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

湯舟坂オリジナルポロシャツ（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

湯舟坂プロジェクトロゴマーク（素組アート制作）

京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ」ポスター（素組アート制作）（図 3・4）

京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅱ」資料集（京都府立大学文学部考古学研究室発行）

【2023 年】

湯舟坂オリジナルしおり・解説シート（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

湯舟坂オリジナル野帳（京都府立大学文学部考古学研究室制作）

京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ」ポスター（素組アート制作）（図 5・6）

京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂 2 号墳Ⅲ」資料集（京都府立大学文学部考古学研究室発行）

地域資源としての湯舟坂2号墳

京都府立大学 ACTR成果報告会 in 久美浜



発掘当時の技術では成しえなかった最新の技術で
湯舟坂2号墳と出土品の再調査を実施
昭和56年、久美浜町須田、伯耆谷で湯舟坂2号墳の発掘調査が行われ、金銅
装具、鹿頭大刀をはじめとする多彩な副葬品が出土し、それから40年、関
係機関がデジタル高精度写真・三次元計測等の最新技術を使用し、石室出土
品の再調査を実施。その成果から、湯舟坂2号墳発掘の感動をふりかえり、
地域資源としての今後のあり方を考える。

企画展示

「開催期間」8月1日(日)まで
「地域の中の湯舟坂2号墳」発掘40周年記念展

◎場所／京丹後市立丹後古代の里資料館

40年の時を経て再び輝きを放つ。

2021 7/24 SAT

13:00~17:00 (開場12:00)

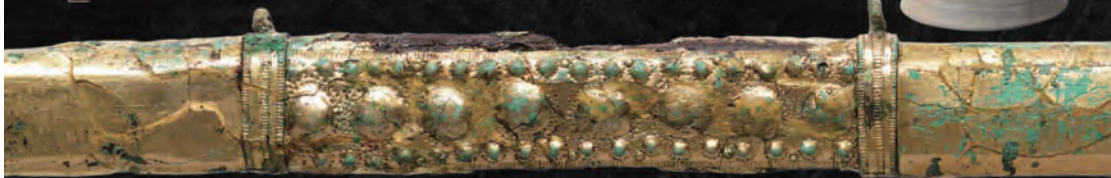
場所 京丹後市役所 久美浜庁舎大会議室

(〒629-3405 京丹後市久美浜町814)

定員 50名 | ご来場先着順 | 無料

主催：京都府立大学文学部考古学研究室 / 京丹後市教育委員会 / 京丹後市久美浜町須田区

共催：京都府立大学京都地域未来創造センター 協力：素組アート



※報告会参加に際してはマスクの着用、手指の消毒、検温等、新型コロナウイルス感染防止対策にご協力をお願いします。 ※新型コロナウイルスの動向によっては報告会を中止することもあります。

お問い合わせ：京丹後市文化財保護課 TEL 0772-69-0640

図1 京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳」ポスター表 (素組アート制作)

令和3年度第1回京丹後市文化財セミナー
地域資源としての湯舟坂2号墳

京都府立大学 ACTR成果報告会 ⑩ 久美浜

Program [報告内容] [司会] 奥 勇介 (京丹後市教育委員会)

12:00 開 場 会場内で写真パネル展(学生解説)、石室VR体験(相互技研)など

13:00 開会挨拶

13:10 趣旨説明 「湯舟坂2号墳プロジェクトのめざすところ」
 諫早直人 [京都府立大学]

13:20 基調講演 「湯舟坂2号墳の発掘調査をふりかえる」
 奥村清一郎 [元京都府教育委員会]

14:10 休 憩 会場内で写真パネル展(学生解説)、石室VR体験(相互技研)など

14:40 【報告1】 「湯舟坂2号墳の発掘調査がもたらしたもの」
 新谷勝行 [京丹後市教育委員会]

15:10 【報告2】 「開ける、調べる、閉める —黄金の大刀を遺し・伝える保存科学—」
 塚本敏夫 [元興寺文化財研究所]

15:40 【報告3】 「再撮と新撮 —写真で挑む湯舟坂2号墳—」
 栗山雅夫 [奈良文化財研究所]

16:10 休 憩 (アンケート回収)

16:20 ディスカッション (司会: 菱田哲郎 [京都府立大学])
 「地域資源としての湯舟坂2号墳」

17:00 閉会挨拶




※ 報告会参加に際してはマスクの着用、手指の消毒、検温等、新型コロナウイルス感染防止対策にご協力をお願いします。
 ※ 新型コロナウイルスの動向によっては報告会を中止することもあります。

お問い合わせ・連絡先 京丹後市文化財保護課 TEL 0772-69-0640

[湯舟坂2号墳]

湯舟坂2号墳は、京丹後市久美浜町須田区に所在する古墳時代後期の円墳です。巨大な横穴式石室の中から双龍環頭大刀や銅鏡、馬具、須恵器など多彩な副葬品が出土し、伯耆谷に広がる須田古墳群の中でも最も有力な古墳の一つと考えられます。丹後半島の古墳時代後期を代表する古墳であり、古墳は京都府の史跡、副葬品は国の重要文化財に指定されています。



[発掘の経緯]

今から40年前の1981年(昭和56)、圃場整備事業に先立つ発掘調査が久美浜町教育委員会によっておこなわれました。地表面上に散乱する石材を取り除き、発掘調査をはじめると、半壊状態の横穴式石室とおびただしい数の副葬品がその姿を現しました。発掘成果は大々的に報道、現地説明会には二千人を超える参加者が訪れ、古墳は保存されることとなりました。








図2 京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳」ポスター裏 (素組アート制作)

令和4年度 第2回
京丹後市文化財セミナー

京都府立大学ACTR 湯舟坂2号墳プロジェクト第2回成果報告会 in 久美浜

地域資源としての湯舟坂2号墳 II

— 出土品研究の最前線 —



2022
10/15 SAT 午場先着順
定員100名
無料

13:00~17:00 (開場12:30)

場所 京丹後市役所久美浜庁舎大会議室
(〒629-3405 京丹後市久美浜町814)

主催：京都府立大学文学部考古学研究室 / 京丹後市教育委員会 / 京丹後市久美浜町須田区 共催：京都府立大学地域未来創造センター 協力：素組アート
※報告会参加に際してはマスクの着用、手指の消毒、検温等、新型コロナウイルス感染防止対策にご協力をお願いします。※新型コロナウイルスの動向によっては報告会を中止することもあります。 [お問い合わせ先] 京丹後市文化財保護課 TEL 0772-69-0640

図3 京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳 II」ポスター表(素組アート制作)

令和4年度
第2回
京丹後市文化財
セミナー

京都府立大学ACTR 湯舟坂2号墳プロジェクト 第2回成果報告会

地域資源としての湯舟坂2号墳 II

— 出土品研究の最前線 —

2022
10/15 SAT

定員100名
無料

Program [報告内容]

12:30 開 場 会場内で写真パネル展(学生解説)など

13:00 開会挨拶
趣旨説明 菱田哲郎 [京都府立大学]

13:10 基調講演 「黄金の大刀の発掘とその後」
新納 泉 [岡山大学名誉教授]

14:10 【報告1】 「湯舟坂2号墳出土具装馬具の素材」
黒住耐二 [千葉県立中央博物館]

14:40 休 憩

14:50 【報告2】 「湯舟坂2号墳出土大刀・銅鏡の文化財科学調査」
山口繁生・初村武寛 [元興寺文化財研究所]

15:20 【報告3】 「湯舟坂2号墳出土大刀の考古学的調査とその研究」
金 宇大 [滋賀県立大学]

15:50 休 憩

16:00 ディスカッション (司会:塚本徹夫 [元興寺文化財研究所]・諫早直人 [京都府立大学])
「湯舟坂2号墳出土品研究の最前線」

16:50 閉会挨拶


※報告会参加に際してはマスクの着用、手指の消毒、検温等、新型コロナウイルス感染症防止対策にご協力をお願いします。
※新型コロナウイルスの動向によっては報告会を中止することもあります。

お問い合わせ・連絡先 京丹後市文化財保護課 TEL 0772-69-0640

[撮影:栗山雅夫]

図4 京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳 II」ポスター裏(素組アート制作)

令和5年度 第1回
京丹後市文化財セミナー

京都府立大学ACTR 湯舟坂2号墳プロジェクト第3回成果報告会  久美浜

地域資源としての湯舟坂2号墳 III

— 湯舟坂2号墳の被葬者像を探る —

2023 7/1 土

13:00~17:00 (開場12:30)

場所 京丹後市役所久美浜庁舎大会議室

〒629-3405 京丹後市久美浜町8-41



来場先着順
定員100名
無料

主催：京都府立大学文学部考古学研究室 / 京丹後市教育委員会 / 京丹後市久美浜町須田区 共催：京都府立大学地域未来創造センター 協力：素組アート
お問い合わせ・連絡先 京丹後市文化財保存活用課 TEL 0772-69-0640

図5 京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳III」ポスター表(素組アート制作)



2023
7/1^土

Program [報告内容]

12:30 開 場 会場内で写真パネル展(学生解説)など

13:00 開会挨拶
趣旨説明 諫早直人 [京都府立大学]

13:15 [報告1] 「丹後王国論の現在」
本庄総子 [京都府立大学]

13:45 [報告2] 「古墳で見る川上谷、そして伯耆谷」
奥 勇介 [京丹後市教育委員会]

14:15 休 憩 会場内で写真パネル展(学生解説)など

14:45 [報告3] 「出土土器からみた湯舟坂2号墳」
稲本悠一 [兵庫県まちづくり技術センター]

15:15 [報告4] 「木棺からみた湯舟坂2号墳」
守田 悠 [京都府立大学大学院]

15:45 休 憩

16:00 ディスカッション (司会: 菱田哲郎 [京都府立大学])
「湯舟坂2号墳の被葬者像を探る」

16:50 閉会挨拶

お問い合わせ・連絡先 京丹後市文化財保存活用課 TEL 0772-69-0640

[撮影: 栗山雅夫(奈良文化財研究所)]

図6 京都府立大学 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳III」ポスター裏(素組アート制作)

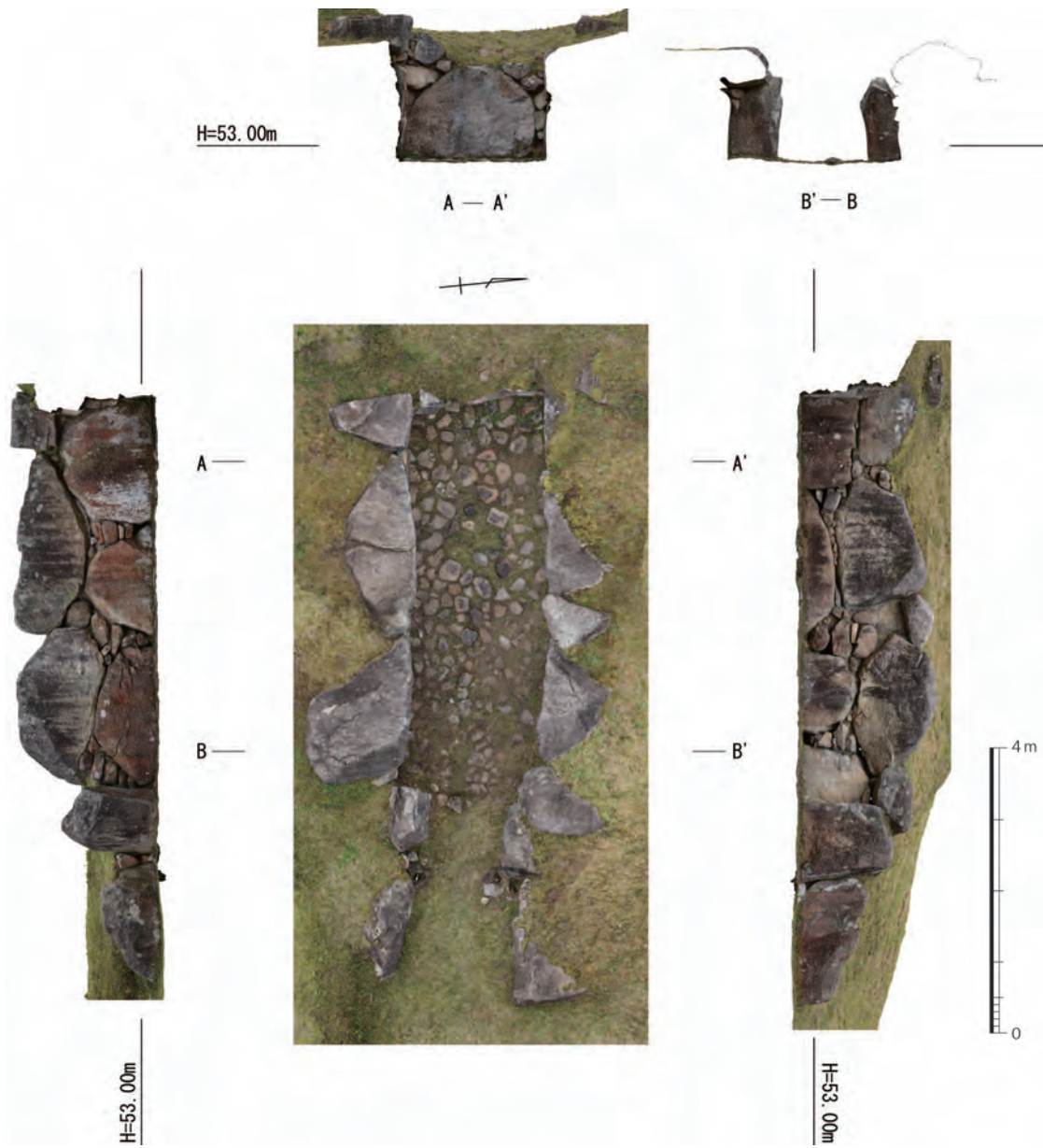


図7 湯舟坂2号墳石室オルソ画像（相互技研計測）（S=1/100）

編集後記

2020年に始まる「湯舟坂プロジェクト」は早くも6年目に突入している。教員生活のほとんどを久美浜に捧げてきたといえば大げさだが、府大に着任したのが2018年なので、私だけでなくたくさんの教え子がそれまで縁もゆかりもなかった久美浜に足繁く通ったことは確かである。3回分の成果報告会資料集をまとめて一書にしようと、気軽な気持ちで本書の制作を思い至ったが、皆さんお忙しく、思いのほか難産だった。スケジュールに追われる中、献身的に編集作業を手伝ってくれた二人の大学院生には感謝してもしきれない。

なお、湯舟坂プロジェクト立ち上げ時から一緒に仕事をしてきた、菱田哲郎先生が今年度でご退職される。まだ隣の研究室には山積みの荷物があるので実感がわからないが、1994年に開設した府大考古にとって最大の岐路であり、寂しい限りである。様々な仕事を通じて文化遺産の地域資源化の重要性を教えていただいた学恩に感謝するとともに、兵庫県と接する久美浜にこれからも足繁くお越しいただければと思う。(い)

表紙写真

- 上左 双龍環頭大刀調査風景（諫早直人撮影）
上中 第2回 ACTR 成果報告会風景（栗山雅夫撮影）
上右 「つなプロ」風景（諫早直人撮影）
下 湯舟坂2号墳出土双龍環頭大刀（栗山雅夫撮影）
裏表紙写真 湯舟坂2号墳全景（南西から。栗山雅夫撮影）



京都府立大学文化遺産叢書 第33集

地域資源としての湯舟坂2号墳

編集 諫早直人（京都府立大学文学部准教授）
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
<https://kpu-his.jp/>
発行日 2025年3月6日
印刷 北斗プリント
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2